

<はじめに>

おかげさまでウラン濃縮工場は、1992年3月の操業開始から、今月で操業30周年を迎えることができました。当社施設を受け入れ、これまで長年にわたり、ご支援いただいた青森県ならびに六ヶ所村をはじめ地域の皆さまに心より御礼申し上げます。

1985年に青森県ならびに六ヶ所村と立地基本協定を締結させていただき、多くの地元企業の皆さまのお力をお借りして、ウラン濃縮工場を建設しました。1991年には安全協定を締結、1992年に日本初の商業用ウラン濃縮工場として、操業を開始することができました。

2000年から技術開発センターにて、オールジャパン体制で新型遠心機を開発、2012年から新型遠心機による生産運転へと移行しました。

操業当時、濃縮事業に携わる社員は、電力会社や動力炉・核燃料開発事業団などの方々为主体でしたが、現在は、約330名のうち7割を超える青森県出身者が中核となって事業を進めています。



立地基本協定締結時の様子(1985年)



着工前の様子(1987年)



着工時の様子(1988年)



工場完成の様子(1991年)



安全協定締結時の様子(1991年)



操業開始(1992年)

年月日	主な出来事
1985年 3月 1日	日本原燃産業(株)が発足
1985年 4月 18日	青森県、六ヶ所村と原子燃料サイクル施設の立地基本協定締結
1988年 10月 14日	ウラン濃縮工場着工
1991年 7月 25日	青森県、六ヶ所村、隣接市町村とウラン濃縮工場の安全協定締結
1992年 3月 27日	操業開始(150tSWU/年で生産運転開始)
1992年 7月 1日	日本原燃サービス(株)と日本原燃産業(株)が合併、日本原燃(株)が発足
1993年 11月 18日	製品ウラン初出荷
1998年 10月 6日	1,050tSWU/年体制を確立
2000年 11月 1日	ウラン濃縮技術開発センター設立、オールジャパン体制で新型遠心機を開発
2012年 3月 9日	新型遠心機による生産運転開始
2017年 5月 17日	ウラン濃縮事業変更許可(新規制基準への適合性審査合格)

<操業30周年記念式典(3月28日)>

現在、44社約350名の協力企業の皆さまに工場の運営や維持管理にご協力いただいています。

式典では、皆さまにあらためて御礼を申し上げ、操業当初から携わっていただいている地元企業2社に感謝状を贈呈しました。



社長から協力企業へ御礼の挨拶



六ヶ所原燃警備(株)大澤社長へ感謝状贈呈



(株)青森クリエイト菅原社長へ感謝状贈呈

<更なる発展を目指して>

記念式典において、ロシアのウクライナ侵攻による原油や天然ガスの価格高騰、3月16日の福島県沖を震源とする地震で火力発電所が停止したことに伴う国内の電力需給ひっ迫など、エネルギーセキュリティ確保の危うさが大きな話題となっていること、2050年カーボンニュートラルの目標を達成する必要があることの両方の観点から、原子力発電は重要な電源であり、そのメリットを最大限享受するための原子燃料サイクルの確立も必須であること、ウラン濃縮事業は、この原子力発電を支える要の技術であり、当社が持つ濃縮技術を維持、継承し、しっかりと操業することが国産の安定したエネルギーを確保する上で、とても重要であることを感謝の言葉とともにお伝えしました。



今後も地域の皆さまへの感謝の気持ちを忘れることなく、地域とともに発展できるウラン濃縮工場を目指してまいります。